

醍醐寺三宝院庭園 2

— 「後悔千萬」の庭 —

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

今回は前号に引き続き、醍醐寺三宝院庭園に先行する室町時代の庭園について紹介します。

三宝院の歴史 京都市伏見区にある三宝院は、真言宗醍醐寺派総本山醍醐寺の子院の一つです。平安時代後期に創建されたと伝えられ、仁王門北東の敷地に仏堂と住房を兼ね備えた建築群と、密教固有の儀式を行なう御堂である灌頂堂かんじょうが建てられていました。室町時代前期頃には住房の機能が仁王門北西の金剛輪院（創建は鎌倉時代末）へと移行し、三宝院は灌頂院として存続していました。応仁元年（1467）に始まった応仁・文明の乱による戦火を受けて、三宝院並びに金剛輪院は焼失、その後は衰退の一途をたどり、廃寺同然となってしまいます。安土桃山時代へと移り変わる頃、豊臣秀吉の信任を得ていた第80代座主の義演ぎえん（二条晴良の息子、足利義昭あしきの猶子ゆうし）は、住房である金剛輪院を復興し、醍醐寺伽藍の再興に努めます。醍醐寺の興隆を念じ、三宝（仏・法・僧）にちなんで、後に名称を三宝院と改めました。現在は下醍醐の中核を担う寺院となっています。

壊された庭 義演が編纂した醍醐寺の寺誌『醍醐寺新要録』巻第十二の金剛輪院篇「庭事」には、以下の一文が記されています。



写真1 金剛輪院時代の旧池護岸石（南から）



写真2 現在の護岸石と金剛輪院時代の井戸跡（南から）

「去天正三年六月□日干時予十八歳下山、當院再興、小堂一字先建立。其時崩築山埋泉水。是或人之異見也。後悔千萬。」

天正3年（1575）は義演が座主になる一年前の話です。18歳で修行を終え、醍醐山から下りて最初に取り組んだのは、金剛輪院の再興でした。小堂1棟を建てる際に、

築山を崩した土を使って池を埋め、整地を行なって、この古い庭を壊してしまったが、とても後悔している、と書いています。では、彼が壊して後悔したという古い庭とは、どのようなものだったのでしょうか。

醍醐寺第74代座主満済まんさいが『満済准后日記』の永享2年（1430）3

月4日付けで、「任庵主が今日之を
 召し給わり、新しく庭を造ること
 を沙汰した」と記述している庭が、
 それに相当すると考えられていま
 す。任庵主は人柄や経歴はわかっ
 ていませんが、室町幕府6代將軍
 足利義教に重用された禅僧として
 知られています。日記には、延べ
 200～300人が普請に関わり、醍
 醐寺の塔頭で、承久元年(1219)
 創建の阿弥陀院から大きな石3つ
 を引いてきて造ったと記されてい
 ます。これらのことから、景石を
 配置する池と築山が造られた規模
 の大きな庭であったことが想定さ
 れます。

地上にあった築山などは跡形も
 ありませんが、この庭についての
 義演の言によれば、池は埋めてい
 るといった点で、遺存している可
 能性が高いと研究者の間では予測
 されていました。この池跡の場所
 を発見することも、庭園の修復に
 ともなう発掘調査の目的の一つと
 なり、池北側の陸部に調査区を設

定して調査を行なうことになりま
 した。

発見された池跡 安土桃山時代
 から江戸時代初頭の白色砂の整地
 層を発見しました。これは、豊臣
 秀吉と義演の造庭によるものです。
 その下層では、金剛輪院時代の池
 跡が良好に保存されていることが
 判明しました。旧池護岸石は現在
 の護岸石から2m程度陸部に入っ
 た位置で発見されました(写真1)。
 大きさは40cm程度の角ばった形
 状の石が使用されており、50cm以
 上の巨石を使った現在の庭石とは
 明らかに異なっていました。池の
 推定規模は、旧池護岸石と北岸の
 現在の護岸石直下で発見した井戸
 (写真2)の位置、各調査区で確
 認した池埋土の範囲から、東西20
 ～30m、南北7m以上であったと
 考えられます(図1)。池の深さは
 0.5mと現在の3分の1程度の
 深さで、埋土から焼けた壁土や炭
 などが出土しました。この旧池は
 護岸石上面までは平坦に埋め戻し、

それより上層は陸部から池に向か
 って斜めに土を入れながら平坦に
 均す^{なら}といった手間のかかる工程を
 採用して、丁寧に埋め戻されてい
 たことがわかりました。

おわりに 金剛輪院は文明2年
 (1470)と弘治2年(1556)に火災
 にあい、その後は天正3年(1575)
 の義演による復興まで松原のまま
 放置されていたとされています。
 調査の際に出土した焼けた壁土や
 炭は、どちらかの時期に焼けた建
 物の痕跡と考えられます。荒廃が
 著しかった池跡を26年かけて新し
 く作り直す労力を厭わなかった義
 演の意気込みは、相当なものであ
 ったのでしょうか。また、この義演
 が造った庭は、秀吉が醍醐の花見
 の準備で来ていた時に見学し、秀
 吉自らの手で造庭したいという普
 請熱に火を付けた原型となる庭で
 した。そして、秀吉が完成させた
 とされる庭をさらに改築した義演
 の情熱の凄まじさに感じ入るばか
 りです。(近藤奈央)

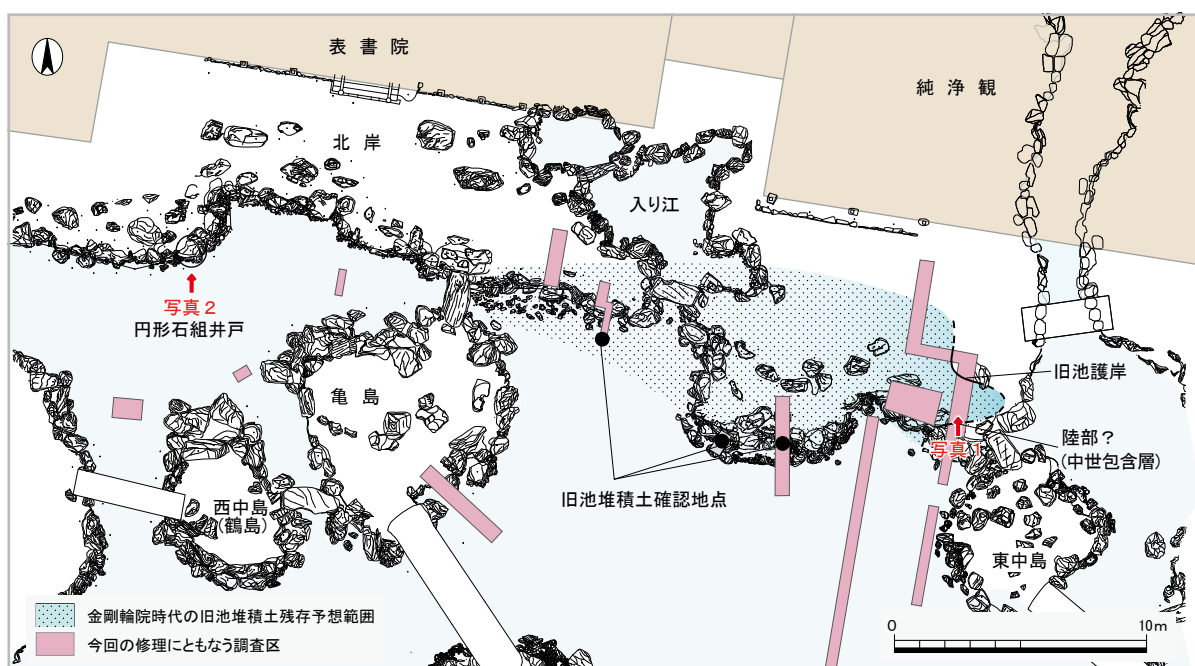


図1 金剛輪院時代の池(1:300)